

職場体験レポート

作成者

大洲市立大洲北中学校

2年 氏名：尾崎 里紗



職場の紹介 徳田いちご園

創業：平成16年
住所：大洲市東若宮8-8
特色：いちご狩りを行う観光農園
従業員：5人

大洲市に2か所あるいちごの観光農園の1つです。市の中心部に近く、伊予大洲駅から車で5分くらいです。今シーズンの営業は、12月22日から5月末日の予定です。

事業所の写真



こんな職場です！



職場で体験したこと



最初にランナー（親株から出ているつるのようなもの）取りをしました。ビニールハウスの数が多く、とても広いので、2日間はランナー取りをずっとしていました。これがとても腕の力を使い大変でした。

ランナー取りが終わると、いちご狩りに来た人がいちごを採りやすいように、ロープを張るための針金を刺しました。マルチ（プラスチックフィルムで土壌を覆う）を破って鉄パイプの中に刺しました。この作業には集中力が必要でした。少しでも刺す位置がずれると刺さらないので、正確に行うことが必要でした。

その他に、風が土を冷やさないようにビニールを巻き付ける作業の手伝いもしました。いちごを育てるためには温度調節が大切なので、ビニールハウス内を暖

かくするための暖房施設がありました。体験中は暖かかったこともあり、まだ暖房が入っていませんでした。寒いままだと、いちごが眠ってしまって十分に育たないため、ビニールハウス内を暖かくしていちごを大きく育てるそうです。こんな知識も体験中に教えていただきました。



体験学習を通して

うれしかったこと、うまくできたこと

同じ作業を繰り返していると作業のスピードがだんだん速くなり、うまくできるようになりました。私がいると作業が早く終わるから助かると言われていたのでうれしかったです。人の役に立つことができたので良かったです。

大変だったこと、失敗したこと

大変だったことは、集中力を切らさずに作業を続けることです。ビニールハウスは広いので同じ作業を繰り返したり続けます。集中力を切らしてしまうと作業のスピードが落ちたり、ミスをしたりするのでずっと集中してやり続ける必要がありました。

感想

働く人の姿から学んだこと

いちごをおいしくするために、いちご農園では細かく丁寧な作業が必要でした。しかも、すごく体力を使いました。このような大変な仕事をするから、おいしいいちごができるということがわかりました。

全体を通して学んだこと

いちごをおいしくするためにたくさん工夫がしてありました。いちごの味だけでなく、いちご狩りに来た人が、いちごを採りやすいように工夫もしていました。いちごを食べる人に喜んでほしいという思いがあることを教えてもらいました。